

坂口志文 大阪大学特別栄誉教授 ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会

免疫が拓く 医療の未来

制御性T細胞
その発見から新しい治療に向けて
Regulatory T cells for Immune Tolerance :
Discovery and Clinical Prospects

2026年3月8日(日)

開場13:00 開演14:00(終了予定15:30)

東京建物 Brillia HALL 箕面
(箕面市立文化芸能劇場)

入場無料 要申込・先着1,400名様

お申込フォーム

右記2次元コードよりお申込いただけます。
<https://open-univ.osaka-u.ac.jp/custom/app/Views/event/detail.php?id=485>



お問い合わせ

大阪大学 坂口志文特別栄誉教授ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会事務局

Email : nobel-lecture-20260308@ml.office.osaka-u.ac.jp



大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

© Nobel Prize Outreach. Photo: Nanaka Adachi

さかぐち
坂口 志文

大阪大学特別栄誉教授

免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）

2025年ノーベル生理学・医学賞受賞

「末梢性免疫寛容に関する発見」



ノーベル賞受賞記者会見（2025.10.6 大阪大学コンベンションセンター）

功績

1979

制御性T細胞(Treg)に関する研究を開始

1995

Tregの存在を示し、免疫学におけるその重要性を世界で初めて証明

2003

Tregを働かせるのに必須の遺伝子 Foxp 3 の発見

ヒトの免疫病の治療・予防、がん免疫療法、
臓器移植時の拒絶反応に対する緩和の誘導
など医療への応用が期待される



坂口志文先生ノーベル賞受賞記者会見の様子はこちちら！



大阪大学「ワニ博士」

研究成果

- 制御性T細胞(Regulatory T cell; Treg)を発見し、免疫自己寛容(自己に対する異常な免疫反応を抑える)、免疫恒常性(アレルギーなどの過剰な免疫反応を抑える)の仕組みを明らかにした。
- 制御性T細胞を標的とした免疫病の治療法・予防法、がん免疫療法の開発、さらに臓器移植時の拒絶反応に対する免疫寛容誘導法の開発に道を開いた。

【学歴】

- 1969年3月 滋賀県立長浜北高等学校卒業
1976年3月 京都大学医学部医学科卒業
1976年4月 京都大学大学院医学研究科博士課程入学
(1977年9月 中退)
1977年10月 愛知県癌センター研究所研修生
1980年4月 京都大学医学部研究生
1983年11月 京都大学医学研究科博士号取得

【職歴】

- 1981年10月 京都大学医学部附属病院医員
1983年9月 ジョンズホプキンス大学卒後研究員
1987年7月 スタンフォード大学客員研究員 (Lucille P. Markey Scholar)
1989年7月 スクリップス研究所助教授
1992年3月 新技術事業団個人研究推進事業「さきがけ研究21」専任研究員
1995年4月 東京都老人総合研究所免疫病理部門部門長
1999年2月 京都大学再生医学研究所教授
2007年10月 京都大学再生医学研究所所長
2011年4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授
2013年7月 大阪大学特別教授 (2016年3月まで)
2016年4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）
2017年4月 大阪大学栄誉教授 (2025年3月まで)
2025年4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
2025年10月 大阪大学特別栄誉教授
2025年12月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）(現職)